

需要獲得

ものづくり

吉田刃物株式会社

佐賀県多久市

長年の技と経験でつくる伝統刃物と高級包丁への挑戦 技術開発と積極的な海外展開で販路を拡大

江戸時代前までさかのぼる肥前刀の伝統・技術を受け継ぐ佐賀刃物の製造事業者。いち早く機械化を進めて確立した、刃物鋼材の組合せ・圧延から完成品出荷までを同社で手掛ける一貫生産体制が同社の強みである。これにより、顧客からの幅広いニーズに対応した開発を可能とし、今では家庭用から園芸用・農業用、さらに産業機械用までの多種多様な刃物約2千種類以上を製造するに至っている。海外にも早くから進出し、日本製包丁メーカー「吉田刃物」は、世界中の刃物愛好家から注目を集めている。

所在地 佐賀県多久市南多久町大字花祭2808
電話/FAX 0952-76-3868 / 0952-76-4126
URL <http://www.hanamatsuri.co.jp/>
代表者 代表取締役社長 吉田 健司

設立 1946年
資本金 3,200万円
従業員数 41人



お困りごとと商品を生産し続けて製造技術の基盤強化

後継者不足により地域の鍛冶屋は廃業が進み、地域特有の刃物の生産が困難になりつつある。同社は創業以来小ロットの依頼もなるべく断らず、全国の必要な刃物の生産を請け負ってきた。顧客の困りごとに誠実に対応してきたことが多様な製造技術の基盤となっている。1989年には高精度、小ロット、短納期が強みの産業用刃物事業部を設立。同年中国国内には園芸用刃物会社を設立。近年は自社ブランド「正清」の園芸用品が海外通販サイトで人気となる等、蓄積した技術力で販路拡大に繋げている。



職人魂と品質へのこだわり

培った技術を活かし高級包丁製造へ挑戦

近年、包丁はステンレス製が主流となり、生産力の勝る大手メーカーに小規模な鍛冶屋は太刀打ちができない状況が続いていた。そんななか、同社は欧州企業より日本製高級鋼材による製造依頼を受け、「ZDP189」を素材とした包丁の生産に挑戦することとなった。「ZDP189」は世界屈指の高硬度が魅力だが、高硬度ゆえに繊細で量産化が難しい。同社は長年の経験と技術で試行錯誤を繰り返し、製造工程の確立に成功した。現在は、日本製包丁ブームもあり、受注は好調で常に生産待ち状態が続いている。



切れ味と耐久性と美 ZDP189包丁

刃物作りで幸せを提供できる、ものづくり企業へ

同社は敷地内にアンテナショップを併設しており、日頃より刃物のお困りごとを受けつけている。年に一度の感謝祭も長年開催しており、地元刃物のよさを伝える活動を続けている。近年では、世界最大の国際見本市アンビエンテに出展し、日本製刃物の素晴らしさを伝え、新たな顧客と新商品を生み出している。海外向けウェブサイトによるプロモーションやSNS等による情報発信を積極的に行い、「刃物作りで社会を幸せに」を企業理念に、地道なものづくり活動を続けている。



最大級国際見本市「アンビエンテ」にて

需要獲得

ものづくり